

評価年月日 平成 29 年 8 月 18 日

研究所名 畜産センター

[完了評価]

課題名 地鶏種卵の長期保存に関する試験（平成 26～28 年度）

【課題の概要】

(1)種卵の長期保存技術の確立

地鶏種卵の保存期間を 14 日間から 28 日間に延長するための条件について、保存温度、保存の向き、追加消毒の間隔、予備加温の有無について検討を行った。その結果、保存期間 22-28 日間において、保存温度を 10℃、種卵の鋭端部を上向き、追加消毒を 14 日間隔で実施し、ふ卵開始 48 時間前から予備加温を実施することで対検卵ふ化率は 85.3%となった。また、22-28 日間の対入卵ふ化率は 71.4%となり、28 日間の保存期間全体での対入卵ふ化率は 75.5%となった。その結果、目標としていた対入卵ふ化率 70%を超えることができた。

また、長期保存後に発生したヒナは、通常の方法で発生したヒナと比較し生育に差はなかった。以上から、奥久慈しゃもの生育（肥育）に種卵の長期保存の影響はないものと示唆された。

(2)生産コストの試算

初生雛 5,000 羽を確保するために必要な種鶏の維持羽数は、保存期間 14 日間では 1,523 羽、28 日間では 778 羽となる。そのため、保存期間を 28 日まで延長することにより、種鶏の生産・維持に係る費用を 49%（試算）安くできることがわかった。

【評価結果】（評価委員数 4 名）

○各項目の評価（各評価委員の平均点）

研究目標の達成度 ・副次的効果	成果の意義・波及効果	成果の普及	合計点
4.8	4.8	4.5	14.1

○総合評価 5：良好

（1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好）

【委員の意見・助言と対応策】

評価項目	意見・助言	
研究目標の達成度・副次的効果	・種卵の長期保存技術のための効果的な手法を示しており、活用できる。	
成果の意義・波及効果	・マニュアルを作成して実用化することで、地鶏生産組合における地鶏雛の生産コストの削減が期待できる。	
成果の普及性	・当センターの種鶏の維持や、種卵生産農家への技術指導を通して、地鶏の生産規模拡大に貢献できる。さらなる延長の可能性についても検討するとよい。	
総合評価	意見・助言	対応策
	・現場で直ぐに活用できる成果であるが、消毒の効果についてはさらなる検証が必要。 ・ヒナの生産コストが削減でき、生産者への貢献は大きく、消費者にとっても手軽に地鶏が食べられるようになることを期待する。	・得られた成果を基に、種卵の長期保存技術を所内で実践しながら、消毒効果について明らかにしていきたい。 ・今回の成果を当センターにおける種鶏群の維持及び種鶏ヒナの生産に活用し、安定的な種鶏供給を行い、ブランド強化に繋げたい。